

さといも管理情報 No. 1

令和 7 年 6 月 25 日
アルプス農業協同組合
富山県富山農林振興センター

J Aアルプス管内のさといも生育は、おおむね順調に推移していますが、6月中旬頃よりスズメガ類（写真）が発生しています。今後の害虫の被害を抑えるため、以下の対策をお願いします。

また、さといもの肥大を促進するため、うね間かん水を行いましょう。

1 害虫対策

ほ場を見回り、害虫の発生がみられた場合は、下表の薬剤をローテーション散布してください（展着剤加用）。

なお、薬剤散布に当たっては、薬害防止のため、朝又は夕方の涼しい時間帯に行ってください。

薬剤名	対象害虫	希釈倍数	使用時期	使用回数	RAC コード※
アディオン乳剤	アブラムシ類 スズメガ類	2,000 ～ 3,000 倍	収穫 7 日前まで	5 回以内	3 A
ディアナ SC	セシジスズメ ハスモンヨトウ	2,500 ～ 5,000 倍	収穫前日まで	2 回以内	5
コナツプロアブル	カンザワハダニ ハスモンヨトウ	2,000 倍	収穫 7 日前まで	2 回以内	1 3

※農薬の作用機構分類の分類コード



写真：セシジスズメ（スズメガ類）

2 いもの肥大促進対策

（1）追肥

- ・うね間が湿っている時に、うね間に「硫酸加里」を 20kg/10a 施用する（1 回）。
- ・8 月までに追肥を終了する。

（2）うね間かん水の実施

ア 実施時期

晴天が 4 日以上続く高温乾燥期

（裏面に続く）

イ 実施判断

日中の高温時（12:00～13:00）や夕方（17:00～18:00）又は朝方（5:00～6:00）には場を見回り、次のような状態が確認された場合は、うね間かん水を実施する。

時間帯	さといもの状態
日中の高温時	排水口付近の株の葉が巻き（図1）、葉柄が弓なりに反り、葉の裏側がみえる。うね間が白っぽく乾いている。
夕方	葉先の水孔から水滴が落ちない。
朝方	葉の上に水玉（図2）がみられない。



図1 乾燥時の葉の巻き



図2 朝方の葉の上の水玉

ウ かん水方法

- ・早朝又は夕方の気温が低く涼しい時間帯にかん水する。
- ・まず排水口を閉めてから、水口を開いて、うね間に通水する。
- ・うね高の1／3程度まで水をため（図3）、ほ場全体に水が行き渡ったら水口を閉め、速やかに排水口を開けて落水する。

※事前にかん水・排水がスムーズに行えるように、うね間の除草や排水溝の手直しを行う。

※かん水後、マルチの中に手を入れて、水が十分に行き届いているか確認する。十分でなければ、次回から湛水期間を長くする、又は鍬でうね側面のマルチに1 m間隔で穴をあけ、マルチ内に水がしみこむようにする。

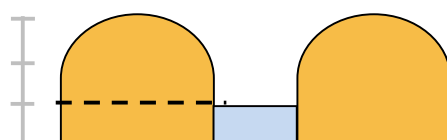


図3 うね高の1／3程度までの水位

うねが崩れるような高水位までのかん水は行わない。

○管理作業に当たっての留意点

【農薬の登録確認・飛散防止について】

農薬の散布に当たっては、濃度や対象病害虫等、農薬容器のラベルを必ず確認してください。また、周辺の他の作物や住宅に薬剤が飛散しないよう十分に注意してください。

【農作業の安全について】

農業機械での作業時等の作業安全対策を徹底し、農作業事故発生防止に十分努めてください。

【熱中症対策について】

農作業に当たっては、こまめに水分を補給する等、熱中症対策に留意してください。

【問い合わせ先】

アルプス農業協同組合営農部 営農企画課
富山県富山農林振興センター 園芸振興班 担当:金森

TEL:076-472-5480
TEL:076-444-4523